

No	提 案 名	提案団体名	
		代表者氏名	所 属
7	食と健康を考えた『ぶらぶらウォーク』まちづくり	宇都宮大学 教育学部 大森研究室 チームファイブ	
		江連 拓実	宇都宮大学 教育学部
		指導教官 氏 名	大森 玲子

1 提案の要旨

栃木県は、1世帯あたりの自家用車保有台数が全国でも上位に入る自動車依存社会である。一方、若者においては、様々な要因から車離れが生じており、身近な大学生をみても移動手段は自転車であることが多い。自動車を保有しない若者が暮らしやすいまちの先には、交通弱者である高齢者や子ども等にも優しいまちの姿があり、また、自転車や徒歩等により身体活動レベルが高くなることにより、健康維持・増進効果を期待できる健康的なまちの姿も見えてくる。

本提案では、若者が暮らしたいまちとして、移動と健康づくりをキーワードに据え、積極的に身体活動レベルを高められるような環境整備を構想する。これらの提案により、日常生活の中で自発的に身体活動レベルが高まる移動手段を選択するような市民意識が芽生え、「活力ある街うつのみや」という将来の姿に繋げることが期待された。

2 提案の目標

本提案の最終目標は、宇都宮市民の健康増進はもとより、イベントの企画を通じた地域活性化にある。そのための環境整備の構想として、JR 駅東口から国道4号線に敷設されているスカイブリッジ遊歩道に着目し、周辺環境の現状と課題を整理するとともに、JR 駅東口からロータリーを経たアーケード商店街を構想し、スカイブリッジ遊歩道との接続を取り込んだ食と健康を考えた『ぶらぶらウォーク』コースを設定する。観光や買い物、飲食等で、五感を使って楽しみながら歩くことにより身体活動レベルの向上に繋げるとともに、駅からの距離を表示することで視認しながら健康への意識向上を高めることがねらいである。更には、『ぶらぶらウォーク』コースにおいて設置した宇都宮の食情報発信基地において、車を保有しない層がアクセスしにくい道の駅の紹介と地場産物、6次産業化商品の販売や飲食提供を構想する。

3 現状の分析と課題

3-1. 自動車依存と日常的歩数の現状

都道府県別の自家用車普及状況によれば、栃木県の1世帯あたりの自動車保有台数は1.628台で全国5位、1人あたりの保有台数は0.650台で全国2位となっており、全国でも上位に入る自動車依存社会を形成している¹⁾。また、都市別の自家用車普及状況でみると、宇都宮市における1世帯あたりの保有台数は1.470台で全国53位、あたりの台数は0.633台で全国24位であり、県庁所在地でみると上位に入る。また、国土交通省のデータから算出した一人当たりの自動車およびバスによる移動の走行距離からみると、兵庫県121.4 km/yr、長野県50.1 km/yr、新潟県45.0 km/yr、栃木県32.5 km/yr、茨城県32.1 km/yrとなり、栃木県は、全国4位に位置する。

一方、平成24年国民健康・栄養調査の結果から²⁾、一日当たりの歩数は男性が7,444歩で全国

25位、女性が6,911歩で全国21位となっており、栃木県の男性は全国平均を下回っている。これらの現状から、日常的に身体活動レベルが低く、運動不足に陥りやすい環境にあることが把握された。

3-2. 宇都宮の駅周辺環境と他地区の状況

東武宇都宮駅には、アーケード商店街であるオリオン通りが隣接しており（写真1）、天候に左右されることなく人が集まり、特に休日は多くの人で賑わうことが多い。全国のアーケード商店街を写真2～7に示す。比較してみると、東京のアーケード街は地価の高さからアーケード商店街の道幅が狭く、多くの人で溢れている状況が把握できる。また、地方都市のアーケード商店街には地方都市ならではの特徴を兼ね備えた質の向上が求められる。JR宇都宮駅周辺にも天候に左右されないアーケード商店街ができれば多くの利用者が見込め、電車利用者だけでなく、周辺地域の人々の買い物環境も改善できると考えられる。



写真1 オリオン通り (2015.11.25 著者撮影)



写真2 札幌 (2010.6.18 知人提供)

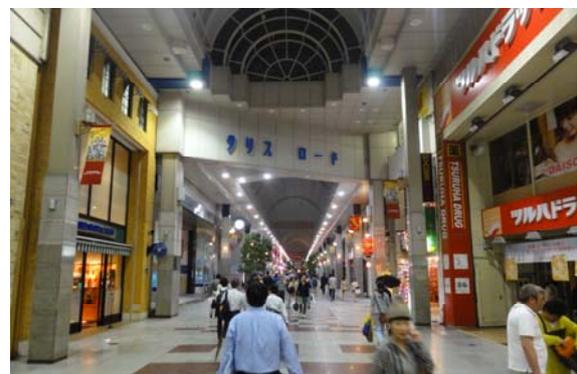


写真3 仙台 (2014.6.7 知人提供)



写真4 新小岩駅前 (2010.7.20 知人提供)



写真5 中野駅前 (2015.9.29 著者撮影)



写真6 富山 (2010.3.30 知人提供)



写真7 鹿児島 (2012.12.7 知人提供)

3-3. JR宇都宮駅東口と遊歩道の状況

JR宇都宮駅周辺は景観が悪いことで名高い。特に東口周辺のみならず、子どもの往来も多い大通りにも風俗店が並んでいることは、景観面だけでなく治安面でも住民や観光客の印象に影響を与える。風俗店が並ぶ先に、スカイブリッジ遊歩道は既設されている(図1)。スカイブリッジ遊歩道は元々、都市整備の一環として敷設され、毎年6月には駅東まちづくり21による「花みずきフェスタ」が開催されている。



図1 スカイブリッジ遊歩道（赤色部分） (Yahoo!地図)



写真①



写真②

遊歩道の入り口を示す案内は、マンション隣の細道に設置されている小さな看板である（写真①）。この看板は駅から歩いてくると裏面となっており、まず見落とされる。また、周辺には遊歩道に関する地図などの案内は設置されておらず、どこまでが遊歩道なのか、どこまで行けるのかが分からない。

また、遊歩道にはゴミが散乱しており、特にベンチのあるところに多く投棄されていた（写真②）。ゴミ箱の設置、あるいは持ち帰るよう注意看板の設置を検討する必要性、学生ボランティアを募り、クリーンアップボランティア活動を計画してもよいと考えられた。

幹線道路を横断するように架かる橋がスカイブリッジである（写真③）。夜間にはライトアップされるが、近隣には住宅街が広がっているため、照度を上げたり点滅させたりすることは難しいと判断された。

遊歩道の途中にはスーパーマーケットや郵便局などがあり、生活するには便利な環境が整っている。遊歩道は更に東方向に、そして北方向に延びているが、終点には目印もなく、活用度の低さが確認された。



写真③



写真④

4 施策事業の提案

4-1. 『ぶらぶらウォーク』コース設定

JR宇都宮駅東口から国道4号線に敷設されているスカイブリッジ遊歩道に着目し、JR宇都宮駅東口からロータリーを経て構想するアーケード商店街とスカイブリッジ遊歩道との接続を取り込んだ食と健康を考えた『ぶらぶらウォーク』コースを設定する(図2)。



図2 ぶらぶらウォーク(緑色部分) (Yahoo!地図)

観光や買い物、飲食等で、五感を使って楽しみながら歩くことにより身体活動レベルの向上に繋がるとともに、駅からの距離を表示することで視認しながら健康への意識向上を高める。更には、『ぶらぶらウォーク』コースにおいて設置した宇都宮の食情報発信基地において、車を保有しない層がアクセスしにくい道の駅の紹介と地場産物、6次産業化商品の販売や飲食提供を行なえるような店舗の設置を提案する。

『ぶらぶらウォーク』コースを広報する上で、年に複数回にわたるウォーキングイベントを開催する。その際に参加者へのお土産として、商品化が難しく食品ロスに繋がりがやすい農産物やそ

の加工品を提供することにより参加率も向上すると考えられる。また、遊歩道を中心とした朝市の開催や朝食提供を実施する。朝市は、駅東にある宇都宮市卸売市場の場外売場と位置付け、定期的で開催する他、道の駅のサテライト店舗を設置すること等により、宇都宮の総合型食情報発信エリアとしての認識を高めていきたい。このような食と健康を考えたコース設定により、「活力ある街うつつのみや」の将来の姿が見え、若者が暮らしたいまちに変貌することが期待できよう。

参考

- 1) <https://www.airia.or.jp/publish/statistics/trend.html>
- 2) 平成 24 年国民健康・栄養調査結果の概要
<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10904750-Kenkoukyoku-Gantaisakukenkouzoushinka/0000099296.pdf>